

# 経営比較分析表

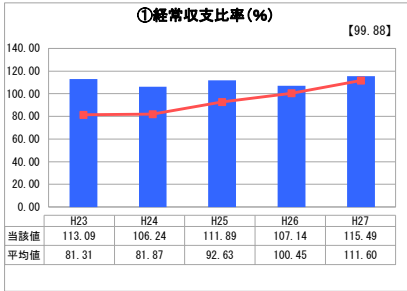
埼玉県 日高市

| 業務名       | 業種名         | 事業名    | 類似団体区分 |                                |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用       | 下水道事業       | 農業集落排水 | F3     |                                |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20㎡ <sup>※</sup> 当たり家庭料金(円) |
| -         | 83.07       | 1.06   | 91.33  | 2,710                          |

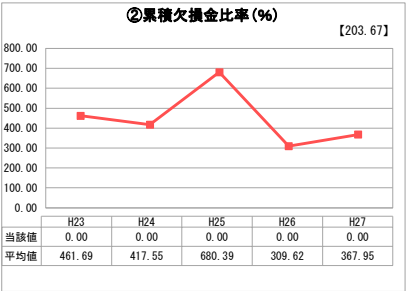
| 人口(人)      | 面積(km <sup>2</sup> )     | 人口密度(人/km <sup>2</sup> )      |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 57,015     | 47.48                    | 1,200.82                      |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km <sup>2</sup> ) | 処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> ) |
| 603        | 0.24                     | 2,512.50                      |

| グラフ凡例          |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値)   |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 平成27年度全国平均  |

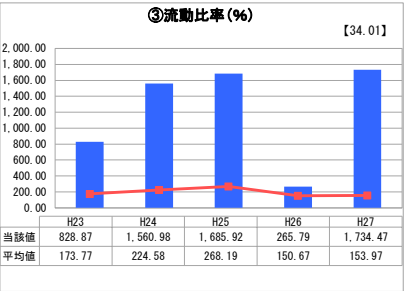
## 1. 経営の健全性・効率性



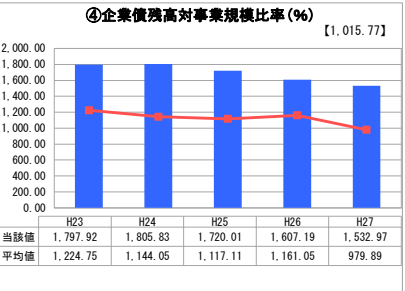
「経常損益」



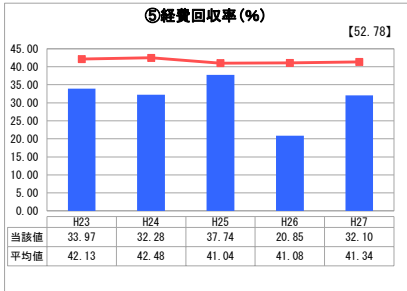
「累積欠損」



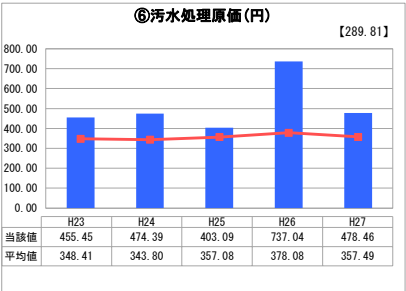
「支払能力」



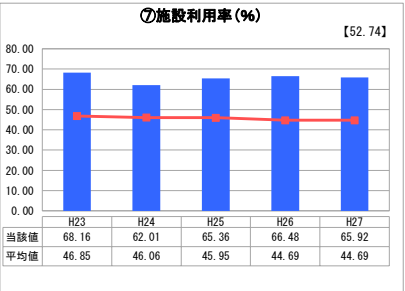
「債務残高」



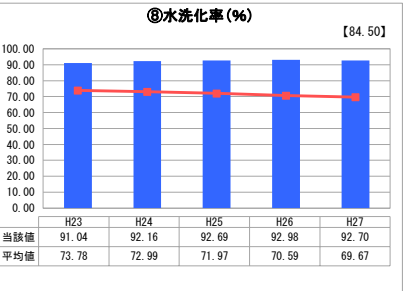
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

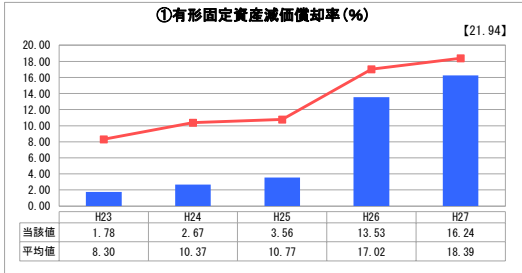


「施設の効率性」

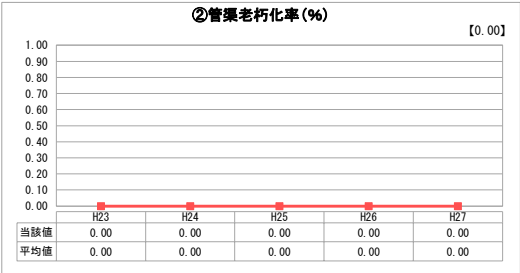


「使用料対象の捕捉」

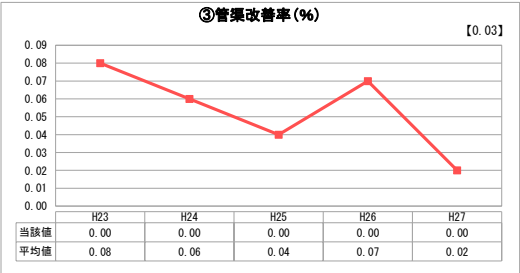
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収支は黒字が続いているが、一般会計からの繰入金により収支不足を補填している状況である。  
②累積欠損金は発生していないが、一般会計繰入金により収支不足を補填している状況である。  
③平成26年度は会計制度の改正により大きく減少したが、平成27年度は平成25年度までの比率にほぼ戻っている。平均値と比較して当該値は高く安定しているといえるが、一般会計からの繰入金に依存している状況である。  
④平均値を上回っており負担が重いといえる。これは、処理区域内人口密度が低い地域において施設整備を行ったためである。当事業地内は施設の整備が完了しているため、現時点では新規投資がないことから比率が少しずつ低くなっている。しかし、今後老朽化施設の更新時期が到来すると新規投資が生じることになる。財源確保のため、水洗化率の向上に努め、使用料収入を確保したい。  
⑤当該値は100パーセントに届いておらず、かつ、平均値を下回っている。理由については④と同様である。水洗化率の向上に努め使用料収入を確保し、かつ、維持管理費の節減に努めたい。  
⑥当該値は平均値と比較して高くなっている。これは④と同様の理由によるものである。平成26年度に比率が上昇したのは、会計制度改正の影響によるもので、平成27年度は平成25年度までの比率にほぼ戻っている。  
⑦当該値は、平均値を上回っていることから効率性に施設が利用されているといえる。  
⑧当該値は高い水準にあるが、100パーセントを目指し、引き続き普及促進に努める。

### 2. 老朽化の状況について

①農業集落排水事業は、平成13年度に供用開始し、14年が経過したところで施設の老朽度は低い。なお、平成26年度から比率が上昇したのは会計制度改正の影響によるものである。  
②法定耐用年数を経過した管渠はないが、点検等を実施し、現況確認を行い、適切な維持管理に努めたい。  
③実績がないため比率は生じていない。今後発生する管渠の改善にあたっては、更生工事等方法を検討し、費用対効果を検証して実施していきたい。

## 全体総括

平成27年度末における日高市農業集落排水事業の経営状況は、収支が継続して黒字であり、累積欠損金も生じておらず、翌年度の支払資金も確保されていることから安定しているが、これは一般会計からの繰入金により収支不足の補填を行っているためである。  
農業集落排水事業は、処理区域内人口密度が低い地域において施設整備を行っているため、汚水処理原価は割高なものとなっている。  
これを全て使用料収入により賄うことは、利用者の負担が過度なものとなる恐れがあるため困難であるが、今後も水洗化率の向上により公共用水域の水質保全、使用料収入の確保に努め、将来的には公共下水道への接続について検討を行い処理費用の削減を図っていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。